

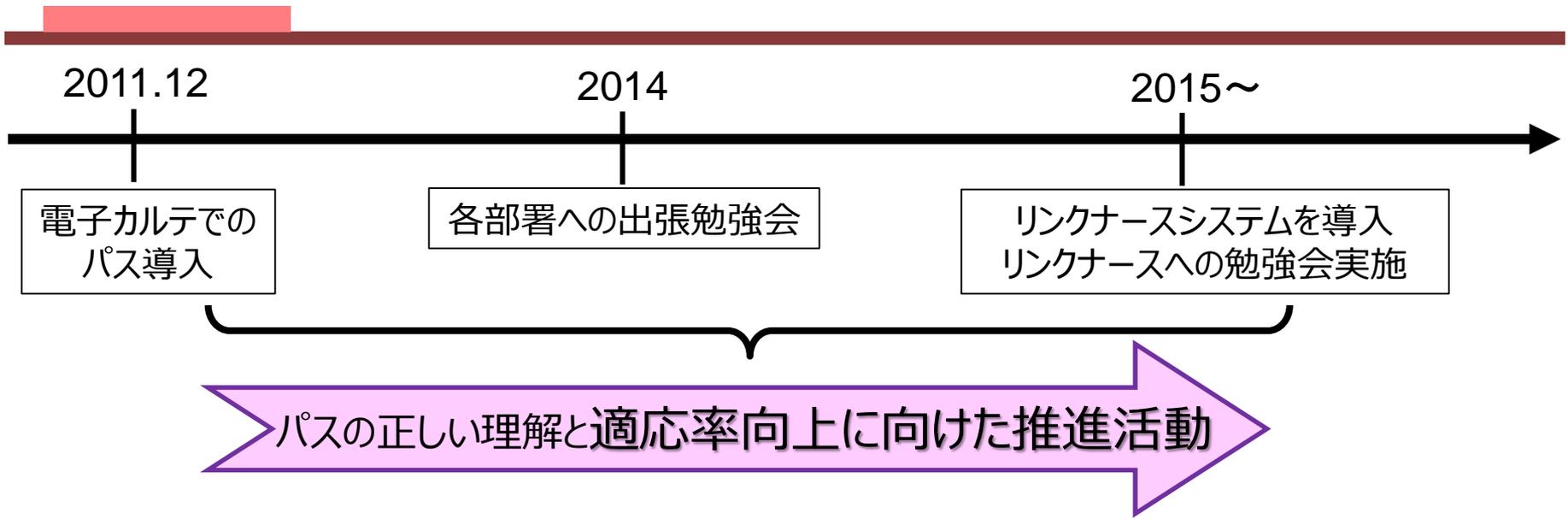
看護師のクリニカルパス適正使用に 向けた取り組みと今後の課題

【はじめに】

- 当院では、2011年12月から電子カルテでクリニカルパス（以下パス）を導入した。
以降、各部署でのパス作成支援や看護部パス委員会メンバーによる出張勉強会、リンクナースシステムの導入等を通し、適応率向上を主眼とした推進活動を行ってきた結果、徐々に適応率は向上している。
- 一方でアウトカムの評価漏れや患者用パス未使用等、不適切な使用状況が散見され、パスが正しく使用されていない実状が認められた。
- そのためパスの適正使用を目標に、パス使用時の実状や看護師のパスの理解を把握する目的で調査を行った。



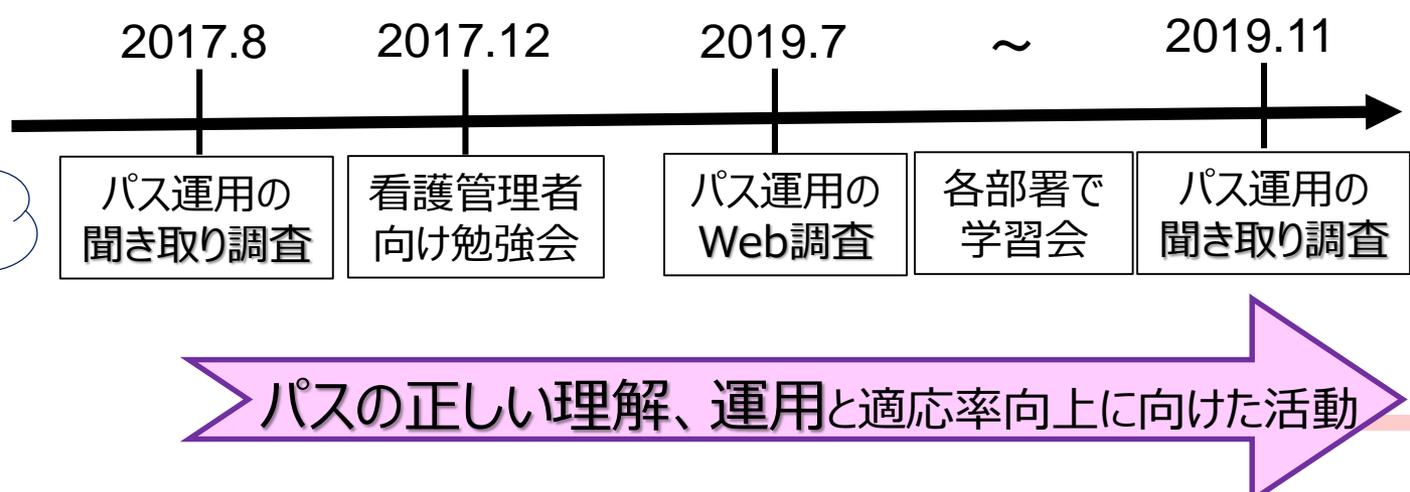
電子カルテでパス導入後の流れ



退院したのに、
またパスの評価が
終わってない...

あれ？患者さん、
患者パス持って
ないけど...

あれ？患者パスあるのに
違うパンフレットで
説明してる？



【実状調査の概要】

目的：病棟でのパス運用の実状把握

1回目：2017年8月

3回目：2019年11月

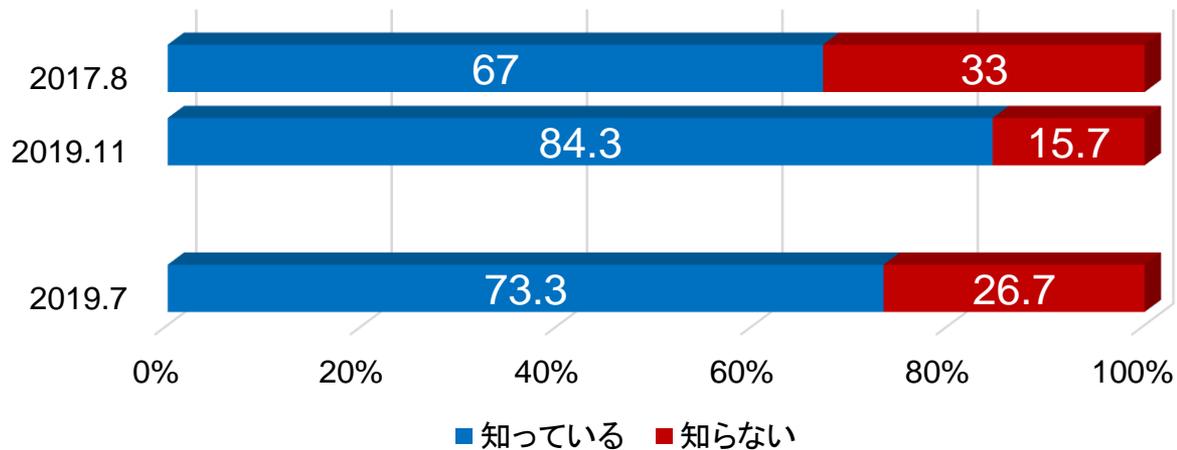
- 対象：手術室、CCM、SICU、外来部門を除く全部署の
新人を除くスタッフ、リーダー各2名と病棟管理者1名
- 方法：質問紙を用いた聞き取り調査

2回目：2019年7月

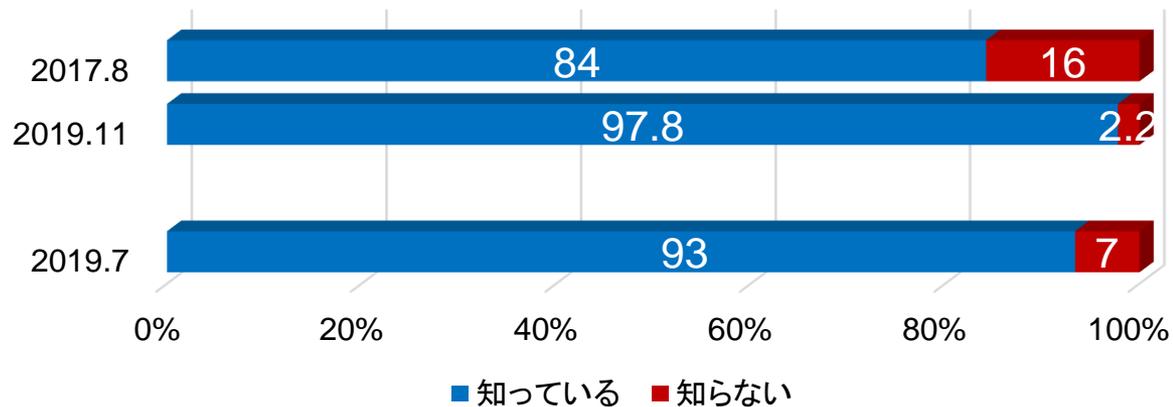
- 対象：手術室、CCM、SICU、外来部門を除く全部署の
師長と新人を除く全スタッフ
- 方法：QRコードからアクセスして回答するWeb方式

調査結果概要

Q1 「医療者パス」があることを知っていますか

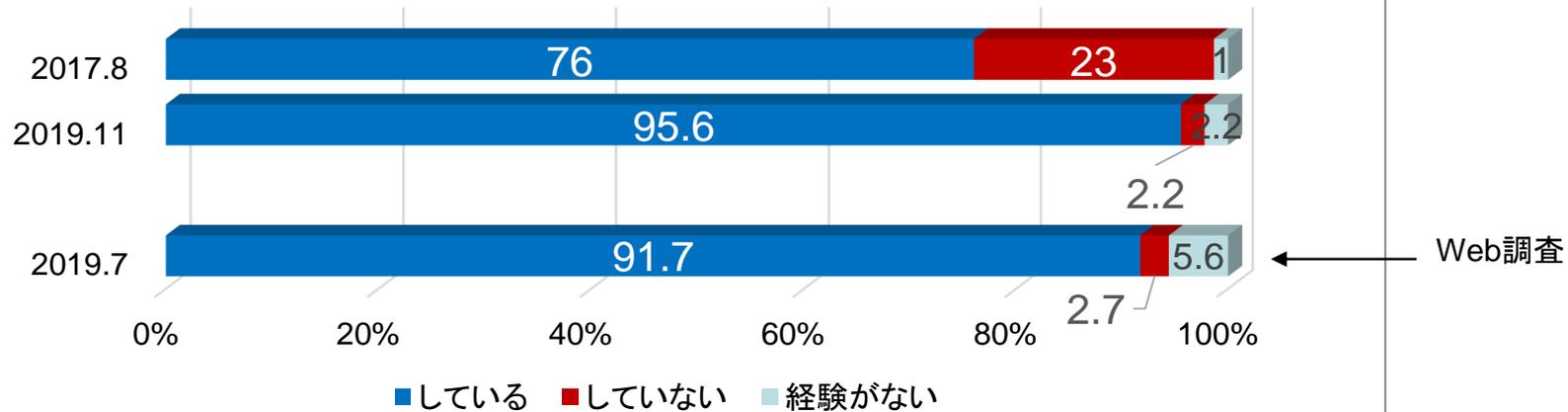


Q3 「患者パス」があることを知っていますか



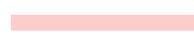


Q6「患者パス」が渡されているか入院当日に確認していますか



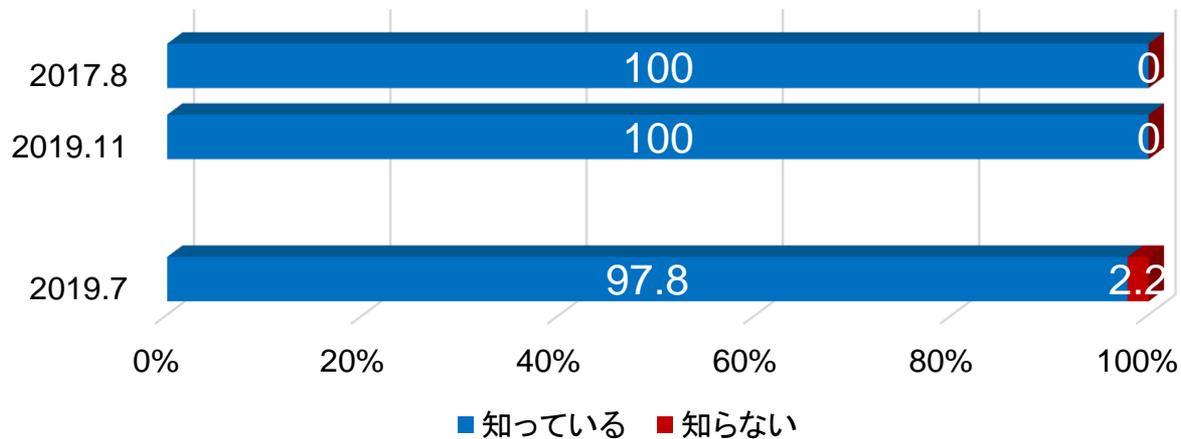
確認していない理由：

- ・忘れる
- ・確認することを知らなかった
- ・絶対に渡されるものだと知らなかった
- ・指示がパソコンに入力されているため
- ・入院後にパスが決定するから



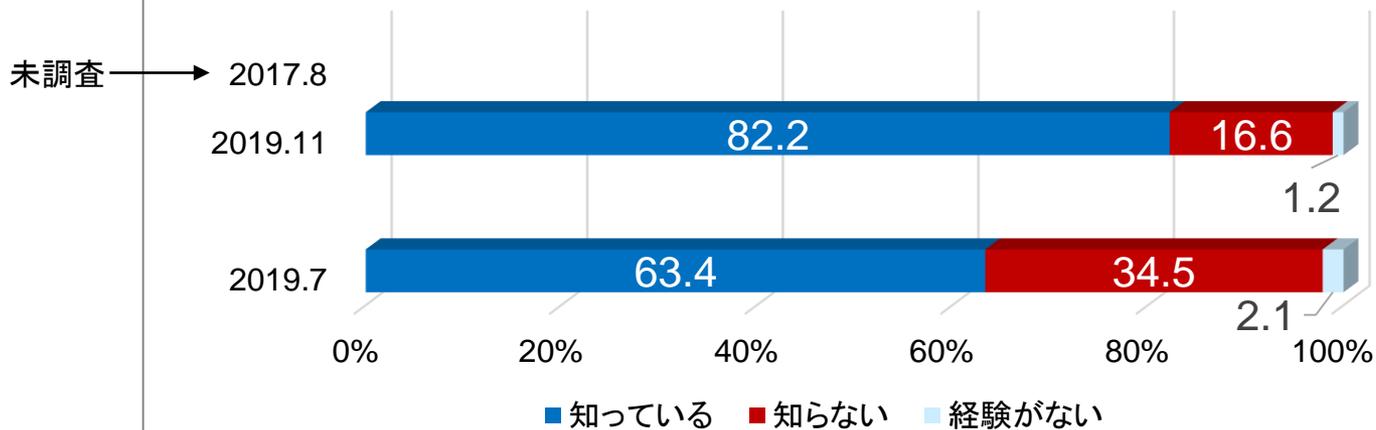


Q8 毎日アウトカムを評価することを知っていますか？



Web調査

Q10 退院日の☆印の意味を知っていますか？



未調査

Web調査

【その他の調査項目と結果の概要】

Q2. 患者がクリニカルパス適応中かどうかの、電子カルテ上の確認方法

⇒3回の調査全てで、複数ある確認方法の何れかを全員返答は出来ていたが、実際にはパスを開けない者も数名いた。

Q4. 「患者パス」の電子カルテでの格納場所

⇒「知らない」と答えた者が1回目の調査では40%程度だったが、2・3回目の調査では8～9%程度まで減少した。
しかし患者パスを忘れてたり入院後にパス適応となった場合に、タイムリーに患者パスを渡せない可能性はある。



Q5. 入院決定後、「患者パス」が渡されているタイミング

⇒3回全てで「知らない」と返答した者が複数おり、院内のパスの流れを理解出来ていない可能性が伺えた。

Q7. 患者パスを使用して、患者に入院から退院までの説明をしているか

⇒短期入院パスと長期入院パスの違いや患者背景によって、説明方法を工夫している返答があった。

Q9. アウトカム評価を行っているタイミング

⇒院内のパスガイドラインで定めている日勤が9割以上であったが、術後の帰室時間等に応じては、評価のタイミングを変更している部署もあった。



【考察】

- 「医療者パス」「患者パス」を「知らない」と返答した看護師がおり、衝撃的な結果であった。
一方でパス適応患者の担当を経験したことがない看護師は数名程度であることから、パスの用語を正しく理解しないままパス適応患者を受け持ち、パスを指示簿的な理解で使用している可能性も考えられた。
- パス導入のメリットの1つである「チーム医療の推進」のためにも共通言語であるパスの用語を正しく理解したうえでパスを運用することは基本であり、パスの基本的な学習の継続が必要であると考える。

【結論】

- パス適応率が微増ではあるものの年々上昇している今、更に活発なパス運用を勧め、医療の質向上に繋げるうえで、パスの適正運用は必須である。
- パスの用語を正しく理解し、正しく使用することにより、パスの理解とチーム医療の更なる発展に繋げることができる。
- リンクナース教育の見直しや部署単位での学習会開催等、パスの基本的な知識を学習する機会を定期的に企画運営することが必要である。